

「防災教育～命を守ろう～」

防災体験談

11月24日(水) 15:30～16:30

講師：NPO法人「神戸の絆2005」副代表理事 岩本しず子氏

内容：「そこから出発」～阪神・淡路大震災の体験で学んだことは～

講演資料より

優しさこそ 人の宝

命を見つめて
命をつなぐ
命を支える
—そこから出発—

「防災教育は命の教育です」「とにかく命を大切にしてください」実際に体験された未曾有の災害から15年。当時、神戸市立本山第二小学校の校長先生として勤務されていた岩本先生は、地震直後に学校に出勤し、被災状況を確認するとともに、続々と避難してくる住民の方々を受け入れる体制づくりをされました。何が起きたかわからないような混乱の中で、「人の心にある善なる心」に心打たれ、人と人のつながりを大切に活動されてきました。

～先生の講演より～

目の前の家族と断腸の思いで別れなければならないような悲惨な状況、地獄のような惨状の中で、お互いにあたたかい思いやりの気持ちがせめてもの救いであった。
子どもたちは「できることを できるところで できるだけ」を合い言葉に、大人は「何もなくなつたとき想像する力が湧いてくる」と精力的に毎日を過ごした。
6,400人余の尊い命が失われた大きな災害だったが、残された者たちは、日々の生活の中で生き抜くために「自分で自分の命を守ること」「自分は何ができるか」「自分は何をするか」を考え、人々の絆を大切に感謝の気持ちを持って暮らしてほしい。

神戸市教育委員会が、平成7年の阪神・淡路大震災後、震災の中で得た教訓や体験をまとめて作成した教材「幸せ運ぼう」のDVDを織り交ぜながら1時間話されました。

千葉県では・・・「自助・共助をはぐくむ防災教育」を推進しています。

防災意識の高い子どもたちを育成するために、次の3つが必要です

- ①災害をイメージする力 ②安全確保のために行動する力
- ③ 他の人を思いやる心

防災教育は「命を大切にする教育」「生きる力をはぐくむ教育」です。

＜防災に関する県民の意識・対応＞ 「備えあれば憂いなし」より（平成21年3月千葉県教育委員会）

県政への要望（県政に関する世論調査平成20年8月）

- 1位 高齢者の福祉を充実する（35.1%）
- 2位 災害から県民を守る（33.3%）
- 3位 医療サービス体制を整備する（30.9%）

防災意識について（県政に関する世論調査平成20年12月）

- 大地震に対する不安を感じている 92%
- 大きな地震に備えて家具などを固定している 45%
- 災害時の非常持ち出し袋の用意している 33%

大災害時には行政による「公助」は重要ですが、阪神・淡路大震災を始め、近年の地震災害では「公助」が軌道に乗って機能を果たすまでには、かなりの時間が必要でした。したがって、多くの県民が望んでいる「災害から県民を守る」ことが、「公助」の充実だけでなく、「自助」「共助」の意識の定着と体制の確立を目指していくものとしなければなりません。

災害被害を軽減する国民運動（内閣府）

（内閣府のホームページより）

「災害被害を軽減する国民運動」とは？



地震、津波、台風など自然災害は思わぬときにやってきます。災害をなくすことはできませんが、被害を少しでも減らすことは今からでも取り組むことができます。この国民運動は、皆さん一人ひとりが日頃から具体的な行動（事前の備え）に着手することによって、安全で安心して暮らしてゆける社会をつくってゆこうという運動です。

まず、普段からできることから取り組んでみましょう。この小さな取組が災害からあなたを守ります。

<減災のてびき>

「やればできる！減災」をテーマに「今すぐできる7つの備え」をご紹介します。

「7つの備え」は、大掛かりな準備や多額のお金を必要とするものではありません。日ごろのちょっとした工夫・備え（気づき）があれば、災害被害を軽減することができます。

「7つの備え」は、以下の7つのポイントからなっています。

- | | |
|------------|------------|
| 1 自助、共助 | 2 地域の危険を知る |
| 3 地震に強い家 | 4 家具の固定 |
| 5 日ごろからの備え | 6 家族で防災会議 |
| 7 地域とのつながり | |

事前にこれらの知識や情報を共有し、対処方法を相談しておけば、いざという時に冷静に行動することができるでしょう。あなたも今すぐにこの「7つの備え」を始めてみませんか。

<一日前プロジェクト>

「災害の一日前に戻れるとしたら、あなたは何をしますか」

この「一日前プロジェクト」は、被災者の方々にインタビューに答えていただき、その話の中から身につまされる小さな物語を生み出すことをねらいとしています。



例

母に学んで、地震に備え～お風呂に水ため、食料も買い置き～

阪神大震災（平成7年1月）

（神戸市 20代 女性 学生）



私の家は、お母さんが節約家だったのか、もともとお風呂の水を洗濯に使っていました。みんなトイレの水がなくて、困っていたと思うんですけど、うちはその水があったからトイレを流すのは、当分はそれでまかなえました。

それから、食料が普通に買い置きしてあったんだと思うんですけど、豊富にあったので、食べ物には困りませんでした。たぶん、普通の生活の中で節約をしながら、何かあった時のためにもなるという考えを持ってやってくれていたんだらうと思います。やっぱり、お母さんは偉いなって思いますね。私も、いつもお母さんをみならって、明日地震が起きても、何とかするぐらいの準備はしているつもりです。

◎他にもたくさんの参考になる小さな物語が掲載されています。

内閣府のホームページ（一日前プロジェクト）を御覧ください。

連絡先：千葉西高等学校（担当：石塚）TEL 043-277-0115